曇雨天に伴う農作物の被害軽減対策について

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平 成 26 年 ８ 月 27日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　広島県農林水産局　農業技術課

８月に入り曇雨天が続いており，１日～25日までの状況は，降水量が平年比324％と多く，日照時間は平年比41％と少なくなっています。気温は平均気温で－0.5℃と，やや低いものの平年並みで推移しています。（※県内アメダス15地点の平均値）

また，８月25日には広島気象台から「低温に関する異常天候早期警戒情報（中国地方）」が発表されており，８月30日から約１週間はかなり低い気温となることが予想されます。

今後，農作物への影響が懸念されるため適切な管理作業を行ってください。

|  |  |
| --- | --- |
| 作　物 | 対　　　策 |
| 水稲 | 　南部地帯におけるヒノヒカリなどの中生種は，８月下旬から９月上旬に出穂期～穂揃い期となります。これまで葉いもちの発生が多いため，降雨の合間をみて穂揃い期の防除を実施し，穂いもち予防を行いましょう。曇雨天が続いていますが散布後３時間降雨が無ければ充分効果はあります。 |
| 野菜 | 夏秋季における異常な低温・長雨・寡照の条件下では，生育・着果不良等となりやすく，また，病害虫が多発しやすいので，気象の推移と生育状況に十分留意しつつ，排水対策や病害虫防除対策を徹底しましょう。特に水田転換畑での露地野菜については排水対策につとめ，根の活性低下を防ぎ，必要に応じて葉面散布等による追肥を行う等，適正な栽培管理に努め，草勢の回復を促進しましょう。キャベツについては，べと病や黒腐れ病の発生が懸念されるため予防散布に努めましょう。アスパラガスについては茎枯病や斑点病の防除を徹底しましょう。 |
| 果樹 | 曇雨天が続いているため多湿となり，病害の多発が懸念されるため，適切な薬剤散布を行い予防に努めましょう。 |
| 施設園芸（野菜・花き） | ビニールハウス等では，高湿度条件が続いており病害が発生しやすい環境となっています。換気に努め通風をよくすることと，適切な薬剤散布により病害発生を防ぎましょう。　施設栽培では，日照不足による軟弱徒長を防ぐため，過度の施肥や灌水を避けるとともに，曇雨天が続いた後の強光による葉焼けを防止するため，光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉しましょう。 |

問合せ先

西部農業技術指導所　東広島市八本松町原6869　電話082-420-9661

東部農業技術指導所　福山市三吉町1丁目1-1　　電話084-921-1311

北部農業技術指導所　三次市十日市東4丁目6-1　電話0824-63-5181

県庁農業技術課　　　広島市中区基町10-52　　　電話082-228-2111